

笑顔をつくる10年ビジョン

～市民の笑顔が人を呼び込むまち～

改訂版



改訂にあたって



平成３０年１２月、「こんな玉名市であってほしい」と願う多くの市民の皆様の意見や希望をもとに、１０年後の将来像をまとめた「笑顔をつくる１０年ビジョン」を策定し、最終目標である「市民の笑顔が人を呼び込むまち」の実現を目指して、様々な取組を進めてまいりました。

前回の改訂から４年が経過いたしました。依然として人口減少・少子高齢化に歯止めがかからず、AI（人工知能）の躍進による情報化社会の更なる進展やSDGs（持続可能な開発目標）の浸透など、社会情勢は絶え間なく変化しております。また、近年発生した大雨被害のような災害の頻発・激甚化に加え、物価高騰による経済バランスの変動により、消費・経営ともに厳しい情勢が続いています。そのような中、本市が持続的に発展し、目指す将来像を実現するためには、この社会の変化を的確にとらえ、柔軟に対応しつつ将来への取組を進める必要があります。

そこで、この度、「将来像を市民の皆様と共有し、その実現に向けて一丸となって取り組んでいく」という１０年ビジョンの策定目的に照らし、目指す将来像や取組の方向性はそのままに、具体的な取組内容について、時代の変化に対応し、最終目標達成のために、より効果的な内容へと改訂いたしました。

日々変化し続ける現在の社会にあっては、将来の目指す姿（将来像）をしっかりと定め、長期的な視点に立って取組を進めていくことが重要です。

この１０年ビジョンを将来への羅針盤として、本市の強みを生かし、可能性を最大限に引き出して、将来にわたって人々の笑顔があふれ、誇りを持てるまち、そしてその笑顔が魅力となって多くの人にも選ばれるまちを目指してまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和８年 ７月

玉名市長
藏 原 隆 浩

目次

1 本市を取り巻く社会情勢	3
2 基本目標	4
3 取組の方向性	4
4 構成図	5
5 基本目標の実現に向けた取組	6
取組 1 市民生活の安定	6
【安心子育て環境づくり】	8
【みんなの生活を守る福祉のまちづくり】	8
【みんな安心健康づくり】	9
取組 2 まちづくりの充実	10
【魅力ある産業づくり】	12
【オンリー玉名！のまちづくり】	12
【機能的な都市基盤づくり】	13
取組 3 行政運営の進化	14
【市民のための行財政運営】	16
【地域内連携の強化】	17
【広域連携の強化】	17

1

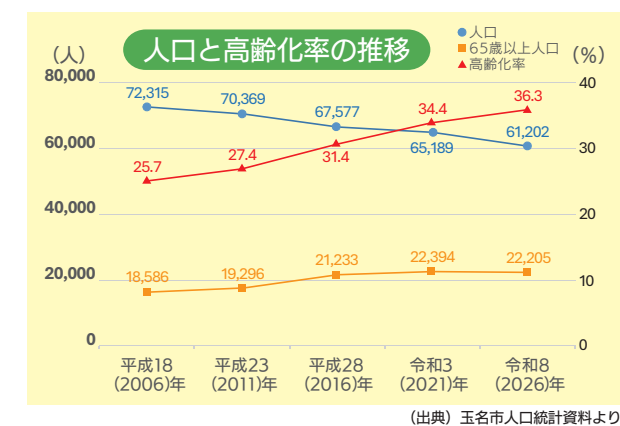
本市を取り巻く社会情勢

人口減少と少子高齢化

日本の総人口は、平成20年の1億2,808万人をピークに減少に転じており、令和30年には1億人を割り込むと予想されています。

本市におきましても、合併した平成17年と比較すると約11,000人減少するなど、人口減少が続いています。また、65歳以上の人口の割合である高齢化率は36.3%となっており、高齢化が進行しています。

このような状況は、地域コミュニティの担い手不足や生産年齢人口の減少による地域経済の縮小、医療・介護費を中心とした社会保障費の増大などへとつながり、これまでどおりの行政サービスを維持していくことが困難になることが懸念されます。



市の財政状況

本市の財政状況は、人口減少と少子高齢化の進展に伴う社会保障費の増加や老朽化したインフラ・公共施設などの更新経費、防災・減災対策、物価高騰への対応など、依然として多くの課題を抱えており、安定した財政運営を行うための事業の見直し（行財政改革）が求められています。

そのような中、自主財源の確保としてふるさと寄附金が大幅な増収となるなど、一部成果が出ている取組もあり、行財政改革を積極的に推進し、より一層の財政健全化を図ることが重要となっています。

また、条件の緩和によって過疎指定となった天水地域においては、玉名市過疎地域持続的発展計画に基づき、過疎対策事業債を効果的に活用して事業に取り組むことで、過疎地域特有の課題の解決を図る必要があります。

持続可能な自治体運営

人口減少や社会情勢の変化、ニーズの多様化などの影響により、自治体に求められているサービスの内容や規模に変化が生じてきています。

市民の皆さんの声に積極的に耳を傾け、真に求められている行政サービスが提供できるよう、対象を明確化した既存事業の見直しや適正化、広域連携による利便性の向上や事業費削減に取り組み、効果的かつ適切なサービス提供を行うなど、市全体の地域の活性化につながる取組が期待されています。

2 基本目標

この「笑顔をつくる10年ビジョン」の最終的な基本目標を次のように定めます。

“市民の笑顔が人を呼び込むまち”

すべての市民が笑顔で暮らせるまちが一番。市民の笑顔をつくり、市民の笑顔を守ることを第一に考え、長期的視点で施策を推進します。そして、その笑顔が魅力となり、多くの人が集い、訪れ、住みたくなるまちづくりに繋がります。

3 取組の方向性

合併前の1市3町の時代から、それぞれの地域には伝統文化と魅力があり、地域性を生かした取組が行われておりました。この「笑顔をつくる10年ビジョン」の推進に当たっては、これまでの地域性や特色を生かした取組を大切に、それぞれの地域が輝き続けるように、また、それぞれの地域で笑顔が絶えないように、“**地域の特色を生かしたまちづくり**”を推進することを基本とします。

玉名地域の特色

- **歴史と文教のまち**
 - ・ 菊池川が流れる玉名平野では米作り、商業、温泉など古くから営まれ、また、大学、高校が集中する県北の文教都市を形成しています。

岱明地域の特色

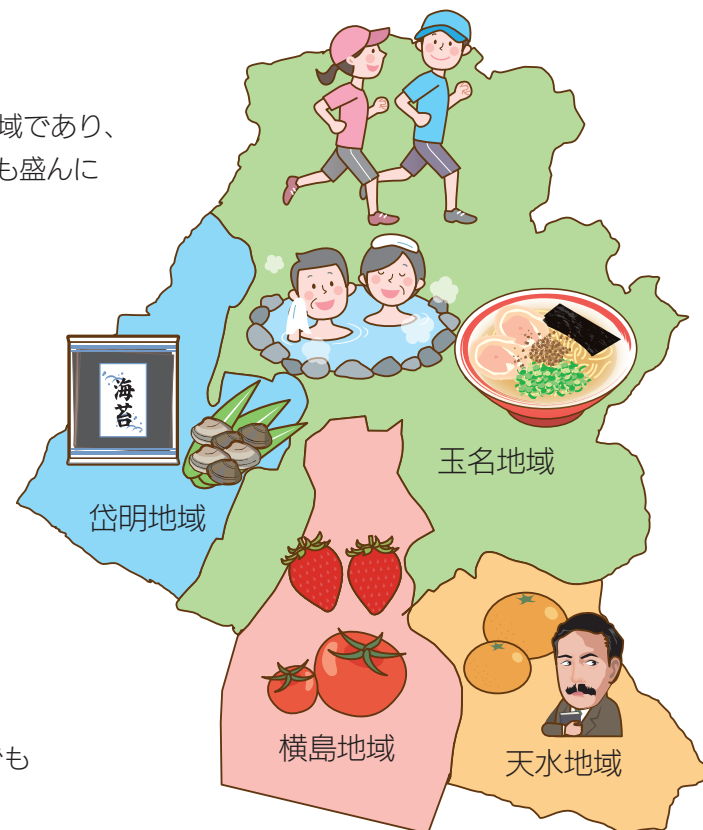
- **産業とスポーツのまち**
 - ・ 有明海の恵みを受けた水産業が盛んな地域であり、また、有名選手を輩出するなどスポーツも盛んに行われている地域です。

横島地域の特色

- **産業と福祉のまち**
 - ・ 広大な干拓地では全国屈指の施設園芸が営まれており、地域の中心部はコンパクトシティを形成した住みやすい福祉のまちです。

天水地域の特色

- **産業と文化のまち**
 - ・ 中山間地を利用した果樹栽培が盛んな地域で、また、夏目漱石のゆかりの地でもあるように文化振興の進んだ地域です。



4 構成図

基本目標	三原則	9つのプロジェクト	具体的な取組内容
市民の笑顔が人を呼び込むまち	市民生活の安定	安心子育て環境づくり	◎ 働くパパ・ママを応援 ◎ 経済面で子育てを支援 ◎ 安全・快適に楽しい学校生活を ◎ 未来を生き抜く力を育成
		みんなの生活を守る福祉のまちづくり	◎ 元気な暮らしをいつまでも ◎ 住み慣れた地域でいつまでも ◎ みんなが自分らしい生活を ◎ 自分に合ったサービスを
		みんな安心健康づくり	◎ 日頃からの健康管理を ◎ 早期治療で重症化を防ぐ ◎ 「いざ」となっても安心 ◎ 楽しみながら健康づくり
	まちづくりの充実	魅力ある産業づくり	◎ 「強い！」農水産業を確立 ◎ 「賑わう！」商工業のまち玉名へ ◎ 「新たな力」で活力を創出 ◎ 「うまい！」玉名産を全国へ
		オンリー玉名！のまちづくり	◎ 豊富な素材を生かした観光振興 ◎ 恵まれた地理的条件でまちづくり ◎ 新たな可能性で賑わい創出 ◎ 音楽の都、スポーツの里へ ◎ 玉名の良さを未来へ繋ぐ
		機能的な都市基盤づくり	◎ 大きな可能性を秘めた新玉名駅周辺の開発 ◎ 市民生活の拠点を整備 ◎ 安全で住みよい環境づくり ◎ 災害に強い都市へ
	行政運営の進化	市民のための行財政運営	◎ 未来を見据えた行財政運営 ◎ 市民の期待に応える市役所へ ◎ 公共施設などの適正管理と有効活用 ◎ 正確な情報をタイムリーに発信
		地域内連携の強化	◎ 高校・大学の特性・専門性を行政運営に反映 ◎ 官民の共創・協働によるまちづくり
		広域連携の強化	◎ 市域を超えた取組の推進 ◎ 様々な自治体と繋がる

この「笑顔をつくる10年ビジョン」は、総合的かつ時系列的に計画を策定するものではなく、めざす姿（将来像）をすべての市民にお示しし、共有しながらその実現に向けて一緒になって取り組んでいくためのものです。

基本目標を達成するために次の3つの取組を推進し、その取組ごとにめざす姿（将来像）を掲げ、その実現に向けて各種施策を実行します。

なお、改訂にあたり、現状と課題、取組概要について見直しを行いました。

取組1 市民生活の安定

(1) めざす姿

子どもたちは楽しそうに遊び、学ぶ。保護者は子どもたちの笑顔を見ながら、安心して子育てができる。そして高齢者は、住み慣れた地域で生きがいをもって暮らせる。そんな日常の中で、子どもから高齢者までのすべての市民が、こんな玉名での生活に魅力を感じ、充実感と安心感の中で笑顔で暮らせるように、多様なニーズに対応した様々な市民サービスの提供と生活環境の整備を図り、住みよいまち、住みたいまちの実現を目指します。



(2) 現状と課題

児童福祉・子育て

- ◎共働き世帯の増加や就労形態の変化、核家族の増加などにより出産・育児に関する考え方も多様化しています。そのような中でも、子育て世帯が安心して出産し、子育てができるよう、育児や保育ニーズに対応したサービスの提供や子育てにかかる経済負担への支援などが望まれています。
- ◎児童数の減少や学校施設の老朽化などにより、地域の実態に応じた学校の適正規模や適正配置など、教育環境を改善し、子どもたちが安心・安全に生活できる教育環境づくりを進める必要があります。
- ◎グローバル化や情報通信技術の進展に伴い、変化が激しく先行きが不透明な社会となっている中、確かな学力を身につけることとあわせて、社会の変化に柔軟に対応していく力や社会の中で自立して生き抜いていく力を養うことが重要となっています。

地域福祉

- ◎高齢者世帯の増加や地域との繋がり希薄化により孤立する高齢者や、超高齢社会の進展に伴う認知症高齢者の増加が見込まれる中、高齢者見守りの更なる充実が求められています。
- ◎障がいのある人や高齢者が、住み慣れた地域で自分らしく生活ができるよう、福祉サービスの充実と、適切なサービスを受けるためのきめ細かな情報提供が望まれています。
- ◎多様化する福祉ニーズに対応するために、これまでの公的な支援に加え、人と人とのつながりを基本としたお互いに支えあう地域づくりが重要となっています。

健康づくり

- ◎糖尿病、高血圧、脂質異常症など生活習慣病を発症する人が増加しているため、今後健康障害を引き起こさないよう早期発見・早期治療など重症化予防の取組に力を入れる必要があります。
- ◎いつまでも自立して自分らしい生活が続けられるように、心身機能の向上とともに地域の人々とのふれあいを通して生きがいづくりを行う通いの場事業など、身近な地域での共助・互助を取り入れた介護予防の重要性が高まっています。

(3) 取組概要

プロジェクト

安心子育て環境づくり

- ◆妊娠・出産・育児に希望を持ち、安心して子育てができるように、子ども医療費の無償化の継続や小中学校の給食費の無償化による経済支援、多様な保育・教育サービスの提供、子育て交流拠点の整備など子育て世帯のニーズに応じた環境の整備を進めるとともに、子どもたちの健やかな発育、成長のために発達段階に応じた切れ目のない充実した支援を行います。
- ◆学校規模・配置適正化基本計画に基づく学校施設の早期整備や小中学校体育館の空調設備の整備などにより、子どもたちが安全で快適に学べる環境を整えとともに、基礎学力の定着はもとより、エンジョイ・イングリッシュやICT教育の推進により、国際化・情報化の社会を生き抜く力の育成に取り組みます。

働くパパ・ママを応援

- ◎各地域の実情に応じて学童保育を拡充
- ◎延長保育や一時預かり保育など多様な保育サービスを提供
- ◎待機児童解消へ向けた取組の推進（保育施設の整備や保育士確保、入所予約児童受入体制推進）
- ◎子ども子育て広場の充実 など

経済面で子育てを支援

- ◎子ども医療費の高校生までの無償化・現物給付を継続
- ◎小中学校の給食費の完全無償化
- ◎妊娠・出産への補助を（不妊治療費の一部助成を継続）
- ◎多子世帯やひとり親世帯への補助など、各種補助の充実で様々なニーズに対応 など

安全・快適に楽しい学校生活を

- ◎学校やPTA、関係機関と連携し、通学路の危険箇所を解消
- ◎良質な教育環境の整備（小中学校空調設備整備、トイレ洋式化の推進） など

未来を生き抜く力を育成

- ◎小中一貫教育により切れ目のない教育を実施
- ◎エンジョイ・イングリッシュなど外国語教育の推進
- ◎ICTを使って情報活用能力を育成 など

プロジェクト

みんなの生活を守る福祉のまちづくり

- ◆高齢者が住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるように、乗合タクシーやその他の公共交通の利便性の向上などによる移動手段の確保をはじめ、ボランティア、NPO、民間企業等の多様な主体による生活支援サービスの創出に取り組みます。また、通いの場事業などへの参加促進や就労支援による高齢者の生きがいを促します。
- ◆障がいのある子どもへの支援や障がいのある人への就労支援など、様々な福祉ニーズに沿った適切な行政サービスを提供するとともに、人権教育・啓発を推進し、あらゆる差別や偏見のない、誰もが住みよいまちづくりに取り組みます。

元気な暮らしをいつまでも

- ◎介護予防活動の場を市内全域へ拡充（通いの場、いきいきふれあい活動などの活動を拡充）
- ◎認知症サポーターの養成などで「日本一認知症に理解のあるまち」を実現
- ◎高齢者の知識と経験を生かしながら健康増進に繋げるため、地域活動などへの積極的な参加を促進 など

住み慣れた地域でいつまでも

- ◎高齢者の移動手段を確保（運転免許証返納者への支援や乗合タクシーの利便性の向上、公共交通体系の整理、外出支援サービスの提供や福祉バスの運行）
- ◎高齢患者のための在宅医療体制の構築 など

みんなが自分らしい生活を

- ◎放課後等デイサービスや保育所等訪問支援などにより、障がいのある子どもの成長をサポート
- ◎就労支援や相談支援などにより障がいのある人の自立を支援
- ◎地域や職場、教育現場における人権教育・啓発活動の促進 など

自分に合ったサービスを

- ◎様々な福祉サービスなどの情報を早急に提供できるよう情報発信を強化
- ◎各々のニーズに合ったサービスを提供できるよう、関係機関と連携して相談体制を整備 など

プロジェクト

みんな安心健康づくり

- ◆食育の推進や定期健診の勧奨・保健指導など、ライフステージに応じた保健予防活動を通して、生活習慣病などの予防や疾病の早期発見、早期治療に繋げ、市民が生涯にわたって健康に暮らせるように健康増進に向けた取組を進めます。
- ◆公民館講座や健康ポイント事業などの実施に加え、総合型地域スポーツクラブやスポーツ関係団体などと連携して、市民が気軽に参加し交流機会の拡大や健康づくり、体力づくりを行うことができる環境を整えます。

日頃からの健康管理を

- ◎健康づくりや食育を推進
- ◎若年層の検診受診による保健指導で生活習慣病予防
- ◎疾病予防のために各種予防接種の啓発 など

早期治療で重症化を防ぐ

- ◎がん検診や特定検診など各種検診の受診率向上で早期発見・早期治療へ
- ◎重症化防止へ受診勧奨と特定保健指導を徹底 など

「いざ」となっても安心

- ◎くまもと県北病院を中心とした地域医療体制の確立（救急救命体制の充実や小児医療の確保、地域医療機関と連携した地域完結型（急性期医療～慢性期医療～在宅医療）の医療体制の構築を目指します。） など

楽しみながら健康づくり

- ◎公民館講座や高齢者教室をさらに充実
- ◎いちごマラソン大会など多くの市民が楽しみながら健康づくりをできる機会を整備
- ◎様々な団体と協力して、子どもから高齢者までの活動機会を確保 など

取組 2 まちづくりの充実

(1) めざす姿

雄大な自然の中で、大地と海の恵みを受けて安心・安全の農水産業を営む。長い歴史の中で築かれた商業のまちは、買い物客や観光客など多くの人で賑わう。市民は、そんな郷土に誇りを持ち、仕事にやりがいを感じ、夢と希望を抱いて働き、そして余暇には、地域の魅力を感じながら家族や仲間と笑顔で楽しむ。そんな地域社会を目指します。



(2) 現状と課題

産業・地域経済

◎農林水産業や商業の担い手の高齢化や後継者不足は、耕作放棄地の拡大や空き店舗の増加などを招いており、地域経済の縮小が懸念されています。

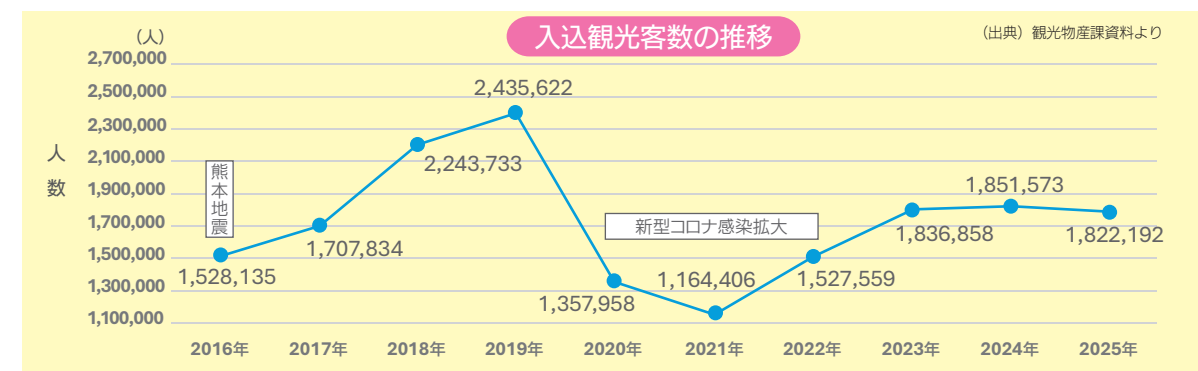
◎気象状況の変化や多発する災害等により農業や漁業を取り巻く環境は厳しい状況となっている中、生産性の向上と安定経営のための基盤整備や高齢者でも働けるような省力化が求められています。

◎本市の人口減少は、若年層の進学や就職に伴う人口流出の影響がもっとも大きいことから、Uターン人口、定住人口の増加のために、新規企業の誘致や地場産業の育成などによる新たな雇用の場や多様な働き方の確保が求められています。

まちづくり

◎時代の流れや価値観の多様化に伴う様々なニーズに対応するためには、公的サービスだけではなく、行政と地域、企業などが連携、協働して直面する課題に向き合い、知恵を出し合って解決していくことが重要となっています。

◎大規模災害（熊本地震）や感染症（新型コロナ）などの影響で極端に減少した観光客数や地域経済は徐々に回復傾向にあるものの、更なる向上が望まれています。



都市基盤

◎これからの持続可能な発展のために、九州新幹線新玉名駅周辺の開発・整備や市役所旧庁舎、中央病院跡地の利活用、J R 玉名駅周辺の再開発の検討などに取り組む必要があります。

◎現代の車社会にあって、狭い道路や路面、橋梁の老朽化が見られる中、計画的な改修による安全性の確保と利便性の向上が不可欠であり、加えて市の一体的な発展のための効果的な交通ネットワークの整備が求められています。

◎地震や集中豪雨など近年多発する自然災害に対応するために、安全の備えを進め、災害に強い都市を形成していくことが重要となっています。

(3) 取組概要

プロジェクト

魅力ある産業づくり

- ◆本市の基幹産業である農水産業の担い手の確保・育成と安定経営のため、新規就農者への支援や農地・農道を始め排水機場や漁港・漁場等の生産基盤施設の整備に努め、地域産業の振興に向けた取組を進めます。併せて、豊かな自然の中で育まれた農水産物や加工品を「玉名の逸品」と位置付け、情報発信・販路拡大に力を入れて取り組むことにより、ブランド力と知名度の向上を図り、生産者の所得向上を目指します。
- ◆玉名商工会議所、玉名市商工会などと連携し、新規創業や事業承継の支援を通じて、空き地・空き店舗の活用促進、市内商工業者の経営の安定、商店街の活性化に貢献するとともに、三ツ川産業団地や遊休地等への新たな企業の誘致による雇用の創出も図り、地域経済の活性化に取り組みます。

「強い！」農水産業を確立

- ◎圃場整備や漁港のしゅん渾などにより、農水産業の生産基盤を強化
- ◎講習会の開催や補助制度の情報提供などにより、生産力向上と収益性の高い経営の確立を支援
- ◎多様な担い手を確保、育成 など

「新たな力」で活力を創出

- ◎官民連携による産業団地の設置など、企業誘致の推進で雇用を創出（TSMC関連など誘致活動を強力に推進）
- ◎企業ガイダンスなどで次世代の担い手を確保
- ◎たまな未来創造塾で新たなビジネスの創出を支援 など

プロジェクト

オンリー玉名！のまちづくり

- ◆金栗四三や夏目漱石に関連した「マラニック」「いだてんマラソン」「草枕ウォーキング」などのイベントの実施、菊池川流域日本遺産や温泉などの歴史的・文化的資源や自然を生かした観光の推進、市場のニーズに沿った商業・レジャー施設の誘致など、本市の特性を生かした官民連携によるまちづくりを進めます。
- ◆インバウンドの推進や市外の観光客の誘致はもちろんのこと、市内からも今より更に魅力的だと感じられる交流拠点（しおまちパーク、スポーツ施設など）の整備を進め、何度も訪れたくなるような目的地づくりによる地域活性化に取り組みます。

豊富な素材を生かした観光振興

- ◎金栗四三や夏目漱石など偉人ゆかりの地として観光PRを強化
- ◎菊池川流域の自然や歴史的・文化的資源を生かすための施設整備や観光ルートの開発
- ◎花火大会や高瀬裏川花しょうぶ祭りなどイベントへの誘客を促進
- ◎玉名クオリティ認証制度で安心・安全な観光地を実現 など

「賑わう！」商工業のまち玉名へ

- ◎旧庁舎跡地などの利活用や空き店舗の活用、創業の支援で中心市街地を活性化
- ◎地域経済の活性化へ向け中小企業や地場企業、商工団体を支援
- ◎感染症や災害に強い地域経済の基盤づくりを促進 など

「うまい！」玉名産を全国へ

- ◎消費拡大や認知度向上のためにトップセールスやSNSで玉名産を広く強く発信
- ◎「玉名産＝玉名の逸品」として磨き上げ、玉名産の競争力を強化 など

恵まれた地理的条件でまちづくり

- ◎地理的な優位性を生かして観光や商業、道の駅的交流施設やレジャー施設の整備や誘致を推進
- ◎九州新幹線新玉名駅を活用した観光施設などの誘致・集積や定住を促進 など

新たな可能性で賑わい創出

- ◎外国人観光客を呼び込むインバウンド事業のマーケティング・プロモーションを強化
- ◎新たな観光モデル「玉名型ツーリズム」で観光振興
- ◎玉名の生活イメージに沿う旅「玉名暮らし」の商品化など、地域と連携して体験型・滞在型の観光商品を開発
- ◎近隣都市からのレジャー、小旅行の「目的地づくり」プロジェクトの推進 など

音楽の都、スポーツの里へ

- ◎関係団体と連携して音楽の都づくりを推進
- ◎市民参加型から競技型まで多様なスポーツイベントを開催
- ◎スポーツ施設の誘致や桃田運動公園の整備でスポーツ振興の環境を整備 など

玉名の良さを未来へ繋ぐ

- ◎SDGs やカーボンニュートラルへの取組など、持続可能なまちへの取組を推進 など

プロジェクト

機能的な都市基盤づくり

- ◆新玉名駅周辺は、商業施設や住宅、公共施設などが立地可能な環境を整えることで民間活力による開発を促進し、良質な暮らしができるまちのモデルエリアとしての整備を進めます。
- ◆市民が集い、賑わい、交流を推進するために、地域づくりや交流の中核的役割を担う公共施設の整備を進めます。
- ◆通学路などの生活道路については、舗装や狭あい道路の改良による安全性の確保に努め、また、計画的な交通網の整備により市民の利便性の向上を図ります。
- ◆多発する自然災害から市民の生命・身体・財産を守るため、国と連携した菊池川防災ステーションの整備や河川改修による浸水対策など基盤の整備を進めるとともに、消防団や自主防災組織などの活動を支援し、災害に強いまちづくりに向けた体制の強化を図ります。

大きな可能性を秘めた 新玉名駅周辺の開発

- ◎「良質な暮らし」のモデルエリアへ！
新玉名駅周辺の開発を推進！ など

市民生活の拠点を整備

- ◎JR玉名駅周辺の再開発の検討着手や市役所旧庁舎、中央病院跡地の利活用
- ◎いつでも、誰でも気軽に利用できる図書館を整備 など

安全で住みよい環境づくり

- ◎民間事業者と連携し、空き家などの遊休不動産活用事業を展開
- ◎安全確保のために徹底した生活道路の維持管理
- ◎先進的なメンテナンスサイクルの確立で、適切で効果的な橋梁の維持管理を推進
- ◎利便性の高い交通網の構築
- ◎情報化推進計画の策定 など

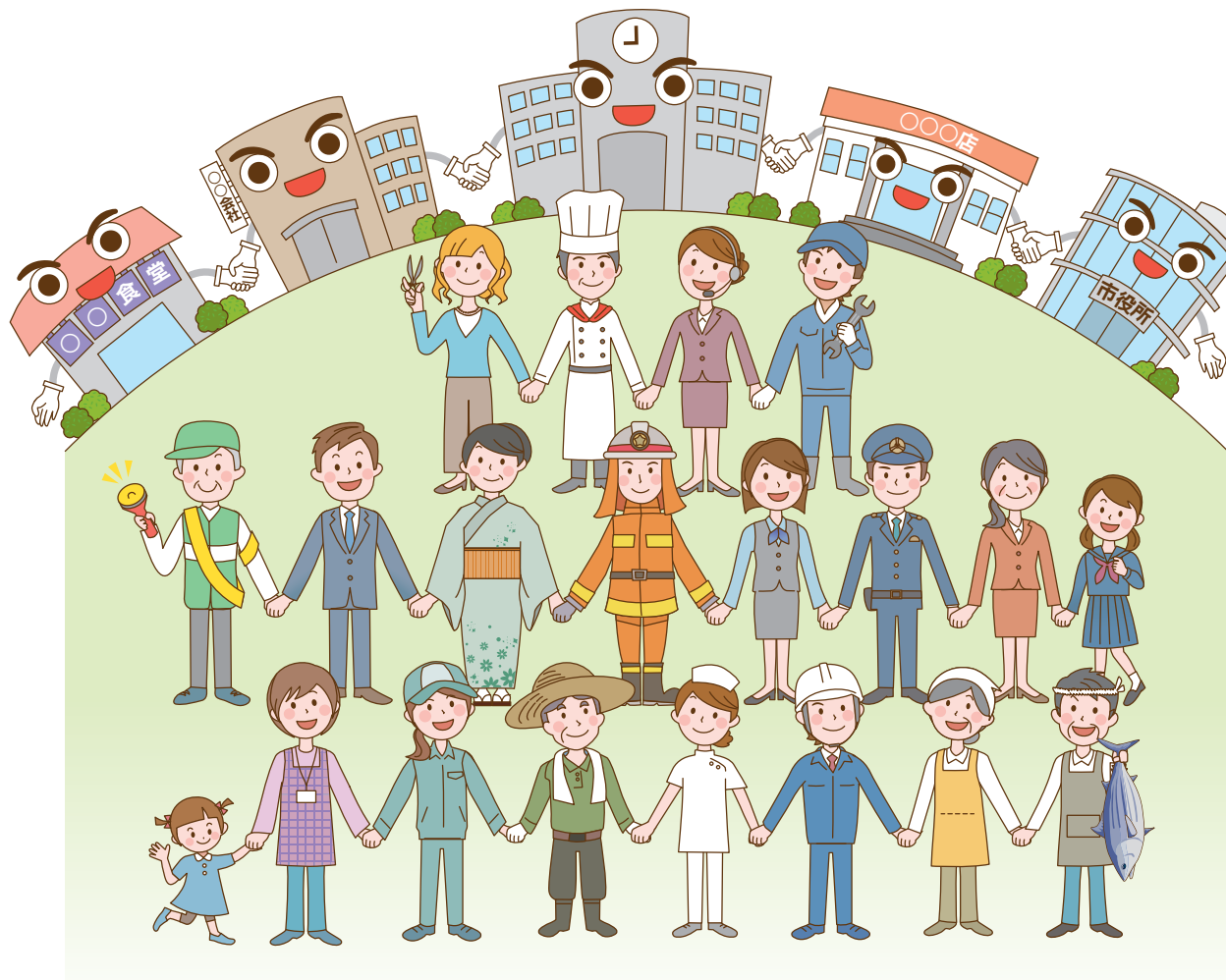
災害に強い都市へ

- ◎実効性のある地域防災計画の策定
- ◎治山・砂防施設の整備や河川・水路改修などにより災害対策を強化
- ◎消防団や自主防災組織など地域防災を担う団体を支援
- ◎菊池川河川防災ステーションの設置で防災力を強化！（平常時は市民の憩いの場へ） など

取組 3 行政運営の進化

(1) めざす姿

市役所は、健全な財政運営のもと関係機関、近隣市町などと連携し、夢と希望に満ちた施策を推進する。職員は、市民との対話を大切に、広い視野と専門的な知識で市民のニーズに応える。そんな市役所に信頼と親近感を抱き、市民の顔が安心感に満ちる。そして市役所と市民が手を取り合い、笑顔あふれるまちをともに創っていく。そのような行政運営を目指します。



(2) 現状と課題

行財政運営

- ◎社会保障関連経費や物価上昇による事業費の増大などの影響により、市の財政は大幅な財源不足が予想されており、今後は長期的な視点での予算の有効配分が重要となっています。
- ◎市が保有する施設については、建設から数十年経過したものが多数あり、社会情勢の変化などにより建設当初の市民のニーズが薄れてきているものがある中で、維持管理や老朽化に伴う更新等に多額の経費を要しています。施設保有量の最適化と併せて、より効率的な管理や利活用が求められています。
- ◎情報化社会が進みインターネットやSNSが広く定着したことにより、それらを活用して市からのお知らせや行政サービス、イベント等について、市民に迅速かつ正確な情報を提供することが求められています。
- ◎市民のニーズが多様化する中、適切な行政サービスを提供するためには、市役所内部の横断的で迅速な対応が求められています。

地域連携

- ◎本市は5つの高校と1つの大学を持つ文教都市としての側面も備えており、それらの高校、大学などと連携したまちづくりや地域活動が期待されています。
- ◎地域の課題が多様化・複雑化している中、地域で活動する団体や企業、行政区などが主体的に、又は行政と協働して身近な課題の解決やまちの活性化に取り組むことが重要となっており、また、その団体や活動への支援などが求められています。

広域連携

- ◎情報化やスケールメリットによるサービスの効率化、利便性の向上が進む中、熊本都市圏や玉名圏域の市町が連携して都市機能や生活機能を確保、充実させ、圏域の活性化に努めることが求められています。
- ◎菊池川流域「今昔『水稻』物語」の日本遺産認定や金栗四三、夏目漱石といった偉人など、歴史的・文化的にも繋がりが深い関連市町と連携した取組の継続が求められています。
- ◎本市を全国にPRし、関係人口の拡大と玉名ブランドの確立を図るために、首都圏等の自治体を中心に交流を深め協力体制を整えることが必要となっています。

定住自立圏構想（中心市：玉名市）

市町村の主体的取組として、「中心市」の都市機能と「近隣市町村」の農林水産業、自然環境、歴史、文化など、それぞれの魅力を活用して、NPOや企業といった民間の担い手を含め、相互に役割分担し、連携・協力することにより、地域住民のいのちと暮らしを守るため圏域全体で必要な生活機能を確保し、地方圏への人口定住を促進する取組です。

玉名圏域定住自立圏形成協定に基づく具体的取組

- ①休日在宅当番医制運営支援事業
- ②保育所（園）広域入所連携強化事業
- ③認知症対策連携事業
- ④新規就農希望者支援事業
- ⑤圏域地場企業への就労支援事業 など

連携中枢都市圏構想（中心都市：熊本市）

人口減少・少子高齢社会にあっても、地域を活性化し経済を持続可能なものとし、住民が安心して快適な暮らしを営んでいけるようにするために、地域において、相当の規模と中核性を備える圏域の中心都市が近隣の市町村と連携し、コンパクト化とネットワーク化により「経済成長のけん引」、「高次都市機能の集積・強化」及び「生活関連機能サービスの向上」を行うことにより、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成する取組です。

熊本連携中枢都市圏形成協定に基づく具体的取組

- ①リーディング産業の育成
- ②中心市街地のにぎわいの創出と交流の促進
- ③地域医療の充実
- ④持続可能な地域公共交通網
- ⑤機関等の共同設置 など

(3) 取組概要

プロジェクト

市民のための行財政運営

- ◆健全で安定的な財政運営のために、中期財政計画による財政の見通しを立て、行政評価制度を活用した事務事業の点検を行い、効果的な予算配分を行います。また、事業の実施に当たっては、民間の資金やノウハウを活用してPPP手法などによる民間活力の導入などを推進します。
- ◆質の高い行政サービスを提供するため、役職に応じた研修や業務の専門性を高める研修などによる職員の資質向上に加え、部局横断的に関係課が連携し、適切で迅速なサービスの提供に努めます。
- ◆今後多くの老朽化した公共施設の改修や建替えを迎える中、市有財産の更なる有効活用を図りつつ、社会情勢や人口動態、市民のニーズなどを総合的に勘案した公共施設の適正配置を進めます。
- ◆広報たまなやホームページを活用して行政情報をわかりやすく的確に提供するとともに、新鮮な情報がより早く多くの人に届くように、市公式LINEなどのSNSを活用するなどタイムリーな情報の発信に努めます。

未来を見据えた行財政運営

- ◎行政評価制度の活用と自治体DXの推進で事務の効率化を徹底
- ◎長期見通しによる計画的な財政運営
- ◎適正で公平な課税と徴収で自主財源の確保（利便性向上へコンビニ収納・キャッシュレス決済を導入）
- ◎PPP手法など積極的な民間活力の導入
- ◎未来を担う地場企業育成のため、入札制度改革で地元業者優先を徹底 など

公共施設などの適正管理と有効活用

- ◎公共施設等総合管理計画に基づく統廃合や長寿命化など、計画的で合理的な資産管理により公共施設の最適化を推進
- ◎公共施設の多目的化や複合化で機能性をUP！
- ◎財源確保に向けた資産の売却や貸付を検討 など

市民の期待に応える市役所へ

- ◎職員の笑顔あふれる接遇と意識改革（関係各課が連携し、部局横断的に対応します。）
- ◎市民のニーズに応える事業展開、専門性を習得
- ◎最大限の能力発揮のために適材適所の人事配置 など

正確な情報をタイムリーに発信

- ◎市政情報が正確に市民に届くように、わかりやすい広報たまなを発刊
- ◎市公式LINEなどSNSを活用して、新鮮な情報をいち早く発信
- ◎適正な情報公開で開かれた市役所へ など

プロジェクト

地域内連携の強化

- ◆高校魅力化コンソーシアム（※）を軸とした玉名市内の高校生と玉名の未来を考える取組や、九州看護福祉大学の公立化による更なる地域連携の強化など、各学校の特性や機能を十分に生かしたまちづくりを進めるとともに、交流による人材の育成と若者の地域定着を図ります。
- ◆各種イベントの開催や玉名市の魅力発信などまちづくりの取組においては、民間企業や団体、地域住民などの知恵と活力を取り入れ、官民連携による「チーム玉名」としての行政運営を進めます。

高校・大学の特性・専門性を行政運営に反映

- ◎たまな未来づくり研究所の開講など、市内5つの高校との連携を強化
- ◎九州看護福祉大学や包括協定大学との連携強化（若い力や専門的な知識を様々なイベントや事業を通じてまちづくりに生かします。）
- ◎地域との交流で若者の地域定着を促進 など

官民の共創・協働によるまちづくり

- ◎多様な主体との協働を推進（地域住民や様々な団体と連携してまちづくりを推進）
- ◎官民連携で共創を実現（企業や各種団体との連携を通して、行政だけでは実現できなかった事業の実現など、新たな視点に立って施策を推進） など

（※）高校魅力化コンソーシアム…多様な主体（地域の住民や市町村、小・中学校、地元企業等）と高校が連携し、地域子どもたちにどのように育ってほしいのかという目標やビジョンを策定するとともに、その実現のための魅力ある学校づくりに取り組む枠組み。

プロジェクト

広域連携の強化

- ◆電子図書館の共同運営など近隣自治体と連携した行政サービスの提供に取り組むとともに、菊池川流域日本遺産や金栗四三、夏目漱石を生かした広域観光ルートの開発・イベントの共同開催など近隣市町や関係機関と連携した取組を進め、地域の活性化を図ります。
- ◆金栗四三や夏目漱石とゆかりのある東京都新宿区、文京区、神奈川県箱根町など、歴史的・文化的なかわりのある自治体などと連携を深め、本市の魅力を全国に発信するとともに、災害時には相互支援できる協力体制を築きます。

市域を超えた取組の推進

- ◎電子図書館の共同運営など、近隣市町と連携した行政サービスを提供
- ◎県北地域で連携した観光振興の推進（日本遺産や金栗四三のPR、インバウンドの推進など、県北地域での協力体制を強化し、観光振興を推進） など

様々な自治体と繋がる

- ◎全国の自治体との連携を強化（歴史的・文化的なかわりをきっかけにして様々な自治体とつながり、イベントの共同開催など交流を重ねて連携を深めます。） など



玉名市